

第 1 部

アジア・太平洋地域で輝く女性たち
～68名の生き方・働き方～



プロフィール

1983年大阪府生まれ。6人きょうだいの末っ子として育つ。医療系の短大に進学後、医療秘書等の会社員生活を経て、大阪の全日制的看護学校に入学。正看護師免許取得後、看護師として大阪の病院に4年半勤務。看護以外の専門性を身に付けるため、2013年にフィリピン、セブ島の語学学校に英語留学。語学学校修了後、別の語学学校のスタッフとして半年勤務していた際、自ら医療英語に特化した語学学校を設立することを思い立ち、2015年4月にセブでHLCAを設立する。現在、フィリピン人の英語教師8名とスタッフ2名と共に事業を運営している。「女性のためのフィリピン留学協会」も立ち上げ、理事を務める。フィリピン・セブ在住。

仕事を経て看護師に挑戦

- ▶ 大阪生まれの大阪育ちで、海外とはほとんど縁のない生活をしてきたが、叔母に連れて行ってもらった教会がきっかけで、子供の頃から海外への憧れがあった。
- ▶ 高校卒業後、医療系の短大に進学、卒業後は病院の医療秘書として予約センターで働いたりしていたが、中途半端な毎日を変えるため、22歳の時に3か月間石垣島で過ごしたこともあった。
- ▶ 石垣島から大阪に戻り、看護助手として患者と関わるようになり、仕事に充実感を見出し、生きがいを見つけられた。勤務先の看護部長に看護師になるよう勧められたり、47歳で看護師になった母からも

「今のあなたならできる」と励まされたため、大阪の全日制的看護学校を受験し、23歳で入学を果たした。海外への憧れから、看護学校を選ぶ際は米国で看護実習の機会がある学校を選択し、2年生のときに米国のカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）での実習にも参加した。

- ▶ 看護学校の時代から起業したい気持ちがあり、女性経営者になることに憧れていた。

セブ島での英語留学

- ▶ 26歳で看護師となり、大阪府内の病院に勤務した。外国人の友人もおり、周囲には英語を話せる人が多かったが、自分は英語が十分には理解できず、外国人の患者が安心する一言も声をかけられないことを情けなく思った。
- ▶ 看護師になった年齢が遅かったため、看護以外の専門性が欲しいと思っていたところ、カナダ留学が良いのではないかという思いに至り、そのためにまずは比較的安価に英語を学べるフィリピンで英語の基礎力を伸ばそうと考えた。
- ▶ 看護師を辞めることには不安もあったが、現場を離れるからには、その期間を取り返せる程の実力をつけて帰るつもりでいた。家族からは、海外に行ったら絶対帰ってこないと思われていたようだが、最終的には応援してくれた。
- ▶ セブ島では4か月間、英語の語学学校に通った。コースの修了後もセブでの生活がすっかり気に入り、別の語学学校でスタッフとして働き始めた。そのような中、知り合いから語学学校を経営することを勧められ、自分の理想の学校設立を考えた。

医療英語専門の語学学校設立

▶ 英語が公用語であるフィリピンでは、新人の看護師が実務経験を積むまでの間、生活費を稼ぐために英語教師をするケースが多い。そういった人材を活用し、医療英語に特化した学校を設立するというアイデアが浮かんだ。当時、セブには日本の看護師が気軽に医療英語を学べる学校がまだなかったため、ニーズはあると思った。

▶ 2015年1月に起業を決心し、準備まで正味3か月での開校となった。自己資金を全て投入し、残りはフィリピン人パートナーが資金提供をした。

▶ 事業許可証やフィリピン労働雇用省技術教育技能教育庁 (TESDA) の認定を取得する必要があるため、パートナーにも手伝ってもらった。役所への申請の際には、フィリピンの役人に外国人、女性、若い、という理由でバカにした扱いをされたこともあり、辛い思いをしたこともあった。

どん底状態からのスタート

▶ 2015年4月に語学学校HLCAをオープン。毎日8～15時まで、フィリピン人看護師とのマンツーマンでの英語レッスンを1週間から半年のコースで実施している。生徒は、大半が医師・歯科医師・看護師の日本人である。良質な居住環境や食事も提供することで、社会人留学生のニーズに応えている。

▶ 最初の半年は、生徒募集がうまく行かず、瞬く間に経営難に陥った。事業計画では、半年間は生徒数

ゼロでも大丈夫と見込んでいたが、結果的に借入れを増やすことになった。

▶ そのため、広報活動に注力し、ブログ作成、外部の記事執筆、日本の医療系大学に営業活動を行うなど、費用がかからないことは何でもやった。すると少しずつ看護師の生徒が増え始めた。

▶ 現在はHLCAの生徒がフィリピンの病院でボランティアができるようなプログラムを準備している。

セブから日比医療への貢献

▶ セブでは日本人向けの介護施設を設ける計画があったり、日本人の患者を受け入れたいという病院も増えてきた。日本の医療制度について相談されることもあり、HLCAの生徒が貢献できると良いと思っている。今後は、リタイア後をセブで過ごす日本人の役に立つような仕事もしていきたい。

次世代へのメッセージ

▶ 何かに一生懸命打ち込むと、結果に関係なく、達成したことは自信につながるはず。試験の点数よりも、決めたことをやり遂げたことが重要だ。

▶ 医療職者はストレスが多い職業で、息詰まる人が多い。私のセブでの活動のように、いろいろな道があるにもかかわらず、医療の現場にいるとそれが見えなくなる。医療職者からのキャリアアップは可能性があるし、そう考えると気持ちにも余裕が出てくると思う。



企業名	Happy Life Cebu Academy
業種	語学学校
ウェブサイト	http://www.hlca-english.com/
住所	1102 Park Centrale, I.T. Park, Lahug, Cebu City, Cebu, 6000 Philippines